

平成三十一年四月十日（水）、清瀬市けやきホールに於いて「第三十回花と緑の吟行会」が行なわれました。選句結果は以下の通りです。

大会賞

花ちるや病者二人に余る椅子

高橋 喜和

傘に降る花や芽苞や清瀬村

黒澤 あき緒

花の雨ひとりで歩くひとりの道

本杉 みさ子

井上 弘美選

特選 花は雨に散り幻の屍室

寺島 ただし

花ちるや病者二人に余る椅子

高橋 喜和

傘に降る花や芽苞や清瀬村

黒澤 あき緒

入選 その奥にしんと句碑ある花の雨

市村 和湖

花散るや波郷の句碑へバスを待つ

上田 公子

芽起こしやかつて波郷の療養棟

田村 唯子

花の雨言葉は永久に滅びざる

本杉 純生

糸瓜蒔く緑地のありて惜命碑

武藤 三山

外気舎の呼び鐘ひとつ若葉雨

一色 正次

飛花落花波郷歩みし道なれば

高橋 典子

花菜漬波郷の待てる見舞妻

中村 香子

南京錠かかる外気舎花の雨

牟田 あき

雨上がり花の陰翳後にする

玉井 信子

外気舎の一打の鐘や桜散る

竹内 榮子

足慣らすはじめの一步いたち草

本杉 みさ子

療養の小径寂るる花苺

恩田 洋子

春の雨外気舎今に木のベッド

安奈 朝

外気舎の壁節くれ冴返る

須賀 ゆかり

春雨やあき子通ひし道をきて

木村 有宏

禅子丸柿の芽吹や波郷句碑

坂野 道子

酒中花も惜命句碑も雨の中

寺尾 敬子

木苺の花に沿ひきて外気舎へ

坂野 道子

花冷の息まつすぐに吐きにけり

前田 恵美

仲村 青彦選

特選

桜散る我は傘寿を持て余し
惜命の文字濡らしゆく春の雨
雨煙る森に散り敷く桜かな

亀井 咲子

柴田 直美

水野 ひさ子

市村 和湖

入選

その奥にしんと句碑ある花の雨
竹の根の広がる勢ひ抱卵期
鳥小屋のごとき外気舎花すみれ
花冷の雨したたれり波郷句碑
病窓に桜蕊ふる音のして
病棟の遠き足音花の朝

甲州千草

峯岸 一茂

田村 唯子

相田 直美

鈴木 千佳子

五味 新悟

山田 桂

黒崎 舞句

入野 ゆき江

岸根 明

松本 正子

伊藤 慶子

仲村 靖恵

寺尾 敬子

前田 恵美

仲村 靖恵

野原 摩湖

竹内 榮子

本杉 みさ子

雨の日の雨の香に立つ松の芯
花冷や病舎に附属保育園
狸出て春の水飲む清瀬かな
まぼろしの先師と仰ぐさくらかな
あゝこれが酒中花雨の藪椿
桑の木に降る春の日の曇かな
板うすき病舎や花の雨しとど
花のころ吾も清瀬に病みをりて
酒中花も惜命句碑も雨の中
花冷の息まつすぐに吐きにけり
木枠ベッド二床並びぬ花の雨
水たまりにも漣や桜散る
外気舎の一打の鐘や桜散る
花の雨ひとりて歩くひとりの道

鳥居 真里子選

特選

松の芯波郷の句碑に長居せり
惜命や花癒やす雨うたがはず

市橋 聰子

湯口 昌彦

岩崎 清子

三上 佐智子

入選

「惜命」の水茎美しき花の雨
「惜命の灯籠」永久に鳥帰る
鳥小屋のごとき外気舎花すみれ
雨粒の光はまろし諸葛菜
廃屋の病棟ありぬ鳥の恋
櫂の芽此処いらむかし清瀬村

峯岸 一茂

田中 佳子

伊藤 素広

宮原 重文

立ち直る古草のあり雨の苑	相田 直美
野火止の流れたゆまず菜種梅雨	武藤 三山
花冷の雨外気舎隠れなし	馬場 えい一
雨の日の雨の香に立つ松の芯	五味 新悟
惜命の文字の黒々花の雨	榊原 敏子
孤高なる惜命灯籠木の芽雨	市川 稲舟
料峭や石みな割れし過去をもつ	湯口 昌彦
病棟の果ての十字路春驟雨	榊原 敏子
槩へ雨よぶ鳩や波郷句碑	石井 孝子
飯能は雪か波郷の清瀬も冷ゆ	石動 敬子
花ちるや病者二人に余る椅子	高橋 喜和
傘に降る花や芽苞や清瀬村	黒澤 あき緒
三本の酒中花椿清瀬かな	贅田 麻記子
玉椿麥丘人と句碑裏に	木村 有宏
蒲公英の置かれたところで咲いてをり	岡部 聰子

橋本 榮治選

特選

鳥影のいきいきはしる桜かな
 花の雨ひとりて歩くひとりの道
 燈籠われ沈みゆく沈みゆく
 ふらここや風の中より少女降り

入選

外気舎の桜吹雪の中にあり
 花冷えや惜命といふ句碑一つ
 花の雨波郷も降りし駅に佇ち
 鳥小屋のごとき外気舎花すみれ
 廃屋の病棟ありぬ鳥の恋
 野火止の流れたゆまず菜種梅雨
 降り足りし櫂の空や初つばめ
 外気舎の呼び鐘ひとつ若葉雨
 雨の日の雨の香に立つ松の芯
 住み古りて清瀬は寧し辛夷咲く
 志木街道けやき通りや木の芽雨
 外気舎の壁の節くれ冴返る
 波郷句碑椿の若木囲みある
 花ちるや病者二人に余る椅子

市橋 聰子
本杉 みさ子
赤沼 青以
淵上 淳乎
大川 倭久
仲村 香子
栗原 公子
峯岸 一茂
伊藤 素広
武藤 三山
伊藤 素広
一色 正次
五味 新悟
西村 椰子
秋元 ユキ子
須賀ゆかり
笹岡 憲子
高橋 喜和

細雨や靴に張りつく花一片
酒中花も惜命句碑も雨の中
新元号つぶやけば亀鳴きにけり
花冷の息まつすぐに吐きにけり
外気舎のベッド二つや花の冷

竹下 喜代子
寺尾 敬子
庄司 久子
前田 恵美
土田 幸子

細見 道子選

特選

青き踏む波郷の歩幅たしかめつ
句碑の句をなぞる指先春の雨

上田 公子
佐野 東隆

入選

春雨やあき子通ひし道をきて
その奥にしんと句碑ある花の雨
外気舎の花やクリップペン二本
花の雨波郷も降りし駅に佇ち
花人の絶ゆること無し波郷句碑
ホスピスの庭のみ明し残花なほ
花冷の雨したたれり波郷句碑
疎林ゆく試歩の患者に囀れる
出発点まだ固かりし雑木の芽
波郷みし屍室いま花吹雪
櫻若葉駅へまつすぐ解けゆく
傷みつつか咲く療園の桜かな
外気舎の壁の節くれ冴返る
花の雨波郷を思ふ雨ならむ
花冷やのこる外気舎戸をとざし
倒れ木の花や余生に余白あり
外気舎に呼び鐘ひとつ若葉雨
惜命の句碑や一縷の花の雨
花片の道やそと見る句碑の裏
南京錠かかる外気舎花の雨
細雨や靴に張りつく花一片

木村 有宏
市村 和湖
山尾 久美子
栗原 公子
三上 佐智子
桂木 酔郷
田村 唯子
遠藤 ゆうや
古舘 泰子
寺島ただし
小林 吉美
滝本 史代
須賀 ゆかり
秋元 ユキ子
高田 くにゑ
山尾 久美子
一色 正次
岸根 明
藤田 美弥子
牟田 あき
竹下 喜代子